

〈新年会報告〉

1月29日(土)、30度後半という真夏のなか、PrahranのGrattan Gardens Community Centreにおいて、JCV本年最初の行事『新年会』が開催されました。

新々江英子副会長の司会進行のもと、定刻通りの正午開始となりました。当初トニー・プレストン会長が開会の挨拶をする予定だったのに、会長の到着が遅れていたため、急遽デービス啓子副会長が開会挨拶を行いました。続く側嶋秀展総領事も事前のお願いなく、その場での挨拶を依頼され、昨年の東日本大震災の際、JCVの呼びかけによって大規模な街頭募金活動が行われたことへの感謝の言葉を頂きました。

その後は、永嶋実さんの乾杯の音頭で、食事会です。炊き込みご飯、巻き寿司、いなり寿司、生ハムなどをのせたフラッペ、サラダ、冷やしうどん、そうめん、筑前煮、冷製ポタージュスープ、炊きたてのご飯に日本式のカレー、etc. etc. カツは先日の料理講習会の成果でしょうか？ Pick Up用のテーブル4台に一杯に並んでいますが、まだ数種類のケーキ・フルーツ盛り合わせ・豆乳プリンといったデザート類は出されていないのです。一品持ち寄りというアイデアは、一見つまみように思えますが、料理自慢の皆さんが腕を振るった、バラエティーに富んだ料理を集めることができ、大変に豪華な食事会を堪能できるやり方だと思います。



しばらくは2011年紅白歌合戦をバックグラウンドミュージックとして、食事と歓談を楽しみました。新年会として、昨年に想いを馳せる時、日本を襲った未曾有の大災害を思わざるを得ないでしょう。話題の一環となっていました。震災の悲しさよりも、復興への願いとそのため何ができるかという点に重点がおかれているように感じました。もう一つの大きな話題は、昨年、この会場でスタートした、日本文化継承の文化サロン Japanese Cultural Salonに関してでした。将棋講師のダレンさんを中心としたグループはずっと将棋を楽しんでいましたし、短歌講師の伊藤さとさんの周りには、自作を評価してもらっておうという人たちが群がっていました。私もその一人でした。



アトラクションのトップバッターはシャミーズの三味線演奏。リーダー只野徳子さんは、一部の曲ですが歌に注力し、三味線の演奏は弟子に任せるという場面がありました。久保田満里子さんの琴の演奏は、「飛躍」という選曲に想いが込められているように感じました。続くカラオケでも、カラオケマスターの土井和章さんが直接歌うことなく、弟子のバイク文恵さんが任されていました。師匠仕込の歌声・替え歌の歌詞内容・振り付けで、大いに場を盛り上げてくれました。カラオケも Japanese Cultural Salonにて講習できますので、興味のある方はどうぞ。

みんなで参加して楽しんだのは盆踊りとラッフル。ラッフルの確率は2分の1でしたが、家族全員が引き当てたのは、どの家族だったのでしょうか？

出し物のトリは、坂本敏範さん率いるりんどうの和太鼓演奏です。途中「新しいメンバーを紹介します」と現れたのは、坂本さんの長男、光説くん。10才ながら大人に混じり、心の奥まで響くようなダイナミックな演奏を聞かせてくれました。



午後4時には、会長の閉会挨拶で散会となりました。復興支援への情熱を感じ、日本文化が浸透してゆくことを感じ、新しい力が育っていくことを感じて、新しい年を良い年にしていきたいと、改めて感じさせられた今年の新年会でした。

矢部勝義 記